

岡田謙三 KENZO OKADA

パリ・目黒・ニューヨーク

2026
2/21
sat

5/10 sun

Paris
Meguro
New York



《間隔》1958年、油彩・キャンバス、220.5×172.5cm、目黒区美術館

目黒区美術館

10:00-18:00(入館は17:30まで) 月曜休館(ただし2月23日[月・祝]、5月4日[月・祝]は開館、2月24日[火]、5月7日[木]は休館)
一般900(700)円、大高生・65歳以上700(550)円、中学生以下無料

*障がいのある方との付添者1名は無料、()内は20名以上の団体料金 *目黒区在住、在勤、在学の方は受付で証明書類をご提示いただくと団体料金になります(他の割引との併用はできません)
主 催:(公財)目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館 協 賛:(公財)北野生涯教育振興会 特別協力:秋田市立千秋美術館、横浜美術館

Meguro
Museum of
Art, Tokyo

1920年代のパリと1950年代以降のニューヨーク、この二つの都市で創作活動をし、さらに1935年には目黒区自由が丘にアトリエを構えて活動した画家・岡田謙三（1902-1982）。その作風はこれらの都市での経験に影響を受けながら形作られていきました。

岡田は、東京美術学校（現 東京藝術大学）入学から約2年後の1924年にパリへ渡ります。第一次世界大戦終結により、世界各国から芸術家が集い、活気に満ちたパリでの日々は、若き日の岡田にとって全てが新しく、視野の広がる経験となりました。モンパルナスのカフェなどに集まって議論していた芸術家たちの仲間に加わり、後に確立する抽象的な作風の基礎となる考え方にも触れ、さながら「心の訓練のようだった」と振り返っています。1927年の帰国後は、戦前から戦後にかけての時代のうねりの中で、これまで培ってきた技巧や様式から離れ、新たに実験の日々を積み重ねていきます。戦後早々に見据えていた渡米を1950年に実現させると、ニューヨークでは抽象表現主義の画家と交流を持ちながら、やがて、淡い色面を組み合わせる独自の作風を確立させました。自身の根源的な感性への回帰の中に築き上げた静謐で力強い表現は、パリとニューヨーク、そして目黒のアトリエでの模索の日々を抜きに語ることはできないでしょう。本展は、岡田の画風の変遷を三つの都市での経験からたどります。

見どころ

岡田謙三記念館を有する秋田市立千秋美術館、出身地としてゆかりのある横浜美術館ほか、複数の公立美術館からの貴重な作品・資料と、当館のコレクションを合わせて、具象から抽象的な作風へと変遷していく岡田謙三の画業をご紹介します。

2mを越える大作が多数出品され、迫力のある展示となります。

画材や素材、コラージュやフロッタージュ等のエスキース、友人・知人との交流が窺える写真資料など、人物像や制作の様子を伝える資料もあわせて展示します。

広報用画像一覧

渡米前の作風の変化（戦後～1949年）

目黒のアトリエで制作された
初期の具象絵画（1930年代）



① 岡田謙三
《巴里風景》1938年
油彩・キャンバス
53.0×65.2cm
秋田市立千秋美術館蔵



岡田謙三
《シルク》1947年
油彩・キャンバス
202.0×321.0cm
横浜美術館蔵
②（岡田きみ氏寄贈）

岡田謙三
《五人》1949年
油彩・キャンバス
202.2×319.2cm
目黒区美術館蔵 ③



ニューヨークで花開いた「幽玄」の世界（1950～1982年）

岡田はアメリカで、自身の芸術を方向付けるキーワードとして「ユーゲニズム」（「幽玄」を元にした岡田による造語）を打ち出しました。幽玄とは、奥深く微妙で、容易にはかり知ることのできないこと。また、あじわい深いこと。情趣に富むことという意味です。



④ 岡田謙三
《竹》1952年
油彩・キャンバス
144.5×83.2cm
秋田市立千秋美術館蔵

岡田謙三
《黒と象牙色》1955年
油彩・キャンバス
182.5×215.5cm
横浜美術館蔵 ⑤



⑥ 岡田謙三
《朱》1962年
油彩・キャンバス
205.2×104.2cm
秋田市立千秋美術館蔵



⑦ 岡田謙三
《間隔》1958年
油彩・キャンバス
220.5×172.5cm
目黒区美術館蔵



⑧ 岡田謙三
《風 No.2》1969年
油彩・キャンバス
208.0×127.0cm
秋田市立千秋美術館蔵

岡田謙三
《ダブル・ランドスケープ》
1974年
油彩・キャンバス
198.0×458.0cm
群馬県立近代美術館蔵 ⑨



開催情報

タイトル 岡田謙三 パリ・目黒・ニューヨーク

会期 2026年2月21日(土)－5月10日(日)

会場 目黒区美術館(東京都目黒区目黒2-4-36)

開館時間 10:00－18:00(入館は17:30まで)

休館日 月曜日(ただし、2/23(月祝)と5/4(月祝)は開館、2/24(火)と5/7(木)は休館)

観覧料 一般 900(700)円、大高生・65歳以上 700(550)円、中学生以下無料
 ※障がいのある方とその付添者1名は無料、()内は20名以上の団体料金
 ※目黒区在住、在勤、在学の方は受付で証明書類をご提示いただくと団体料金になります
 (他の割引と併用はできません)

主催 公益財団法人 目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館

協賛 公益財団法人 北野生涯教育振興会

特別協力 秋田市立千秋美術館、横浜美術館

交通機関 JR山手線・東急目黒線・東京メトロ南北線・都営三田線「目黒」駅(西口)から徒歩10分
 東急東横線・東京メトロ日比谷線「中目黒」駅から徒歩20分
 東急バス「権之助坂」(目黒通り)下車徒歩5分、「田道小学校入口」(山手通り)下車徒歩3分

関連催事

■大人のための美術カフェ

本展を担当した学芸員が展覧会の見どころなどについて話します。

日時：3月22日(日) 14:00－15:00頃

場所：目黒区美術館 1階ワークショップ室

参加方法、定員：当日先着順(30名程度)

■講演会「48歳からの挑戦」

「岡田謙三展」(2003～2004年、横浜美術館ほか)を担当された講師をお招きし、岡田謙三が1950年代初期に編み出した制作手法や様式などについてお話しいただきます。

日時：5月2日(土) 14:00－15:30

場所：目黒区美術館 1階ワークショップ室 参加方法、定員：当日先着順(50名程度)

講師：横浜美術館 副館長・主席学芸員 柏木智雄

*いずれの催事も当日有効の観覧券が必要です。

この他にも、**同時期開催 ワークショップ2026春**で展覧会に関連したワークショップ等を開催予定です。詳しくはホームページなどをご覧ください。

広報用写真

本リリース掲載の図版①～⑨を本展広報用写真としてご提供いたします。

ご希望の方は、申込用紙(5ページ目)の内容をご確認の上、必要事項をご記入いただき、FAXでお申込みいただくか、同内容を本展担当者宛メールにてお申し込みください。

本展の問合せ先

目黒区美術館 展覧会担当(学芸) 誉田 / 広報担当(事務) 竹森・丸

〒153-0063 東京都目黒区目黒2-4-36 tel. 03-3714-1201(代) fax. 03-3715-9328

e-mail: mmatoffice@mmat.jp <https://www.mmat.jp>

岡田謙三 パリ・目黒・ニューヨーク 広報用画像申込書

宛先：目黒区美術館 岡田謙三 パリ・目黒・ニューヨーク 担当者宛
FAX：03-3715-9328 E-mail：mmatoffice@mmat.jp

■ 本票に必要事項をご記入のうえ、上記宛先までFAXでお申し込みいただくか、メールにて本票と同内容の事項をご希望の図版番号をお知らせ下さい。掲載紙・誌を1部ご寄贈くださいますようお願い申し上げます。

お申し込み日	年 月 日		
御社名			
ご担当者氏名			
住所	〒		
TEL		FAX	
E-mail			
掲示媒体名 (雑誌名など)			
メディアの形態	【紙媒体】 新聞／雑誌／ミニコミ誌／フリーペーパー／その他() 【電子媒体】 テレビ／ラジオ／WEBサイト／携帯サイト／その他()		
発行・放送予定日	年 月 日		
ご希望の画像	図版番号 ①～⑨のご希望の図版番号をご記入ください 		使用条件等 *写真画像への文字載せは不可です。 *原則、写真の画像加工(トリミング・色調整など)は不可。 但し、モノクロで使用の場合は、コントラスト、ガンマ値の適宜調整を許可する場合があります。 *各作品のキャプション及びクレジットを必ず明記してください。
連絡欄			

■ お申し込み受け付け後、画像データ(JPEG)のダウンロード先を返信でお知らせいたします。

お手元の環境等によりダウンロードできない場合は別途ご連絡ください。

■ 使用にあたっては、【広報用画像について】の内容をご了承いただることが条件となります。

必ずご確認いただきますようお願いします。

【広報用画像について】

- ・画像データはメールにて送付いたします。
- ・画像は展覧会紹介の目的のみにご使用ください。
- ・データを第三者に渡すことは禁止いたします。
- ・使用後、データは破棄してください。
- ・展覧会の名称、期間、会場などの情報は分かりやすく掲載してください。
- ・画像への文字載せは不可です。
- ・画像使用の際は、キャプション、クレジットを明記してください。
- ・掲載誌(紙)は1部、当館担当者までお送りください。
- ・Webサイトは公開後にURLをお知らせください。
- ・当館が掲載内容を確認できるように、掲載前に校正をお送りください。

◎ 本展を紹介してくださる媒体には、展覧会の招待券(5組10名様)を読者プレゼント用に提供いたします。
ご希望の方は下記にご記入ください。

読者プレゼント用招待券を【希望する・しない】

<広報用画像に関する問い合わせ先>

目黒区美術館
TEL.03-3714-1201 / FAX.03-3715-9328
展覧会担当：(学芸) 誉田
(広報・事務) 丸・竹森